

平成27年度 学校法人三幸学園 大阪リゾート&スポーツ専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者:副校長 渡邊 慧

学校関係者評価報告責任者:学校関係者評価委員会委員長:西鶴 和博

1. 学校の教育目標

「技能と心の調和」を教育理念に掲げ、共有に努め、専門分野において理念に基づいた人材育成をしています。

目指す人物像としては、「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」。

2. 27年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①重点施策振り返り

「卒業生満足度UP、退学率低減」を重点項目として取り組む

・卒業生アンケート→「本校への進学相談を受けた場合勧めるか？」の項目に着目。

・退学率低減→新入生オリエンテーション、新入生保護者会の実施。

②学校関係者評価委員会コメント

昨年度の課題に対して、対策を実施している部分については評価できる。

社会に貢献できる生徒を社会に送り出すために委員会の内容をしっかり実行に移してほしい。

また、学校が業界との連携を密に図り、情報を学生に伝えていく事が大切になる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課題

入学前に保護者説明会等で、学校の理念・目的・育成人物像など十分に伝えている。説明会に出席できなかった保護者の方には、書類を送付し、学校の理念や目的・育成人材像を伝えている。在校生の保護者に向けては各担任から、就職に向けての育成人物像を記した書類を郵送している。

学科・コースごとに課題があり、それぞれの課題をクリアするための対応策が必要と考えている。

② 今後の改善方策

教育理念や目標浸透のために引き続きポスターの掲示を行い、浸透を図っていく予定。

また、保護者 1 人 1 人に連絡を入れ、学校の方針などの説明や情報交換を行っている。

③ 特記事項

学園の教育理念の浸透が広がってきている。多数学校を設置している学校法人であるが、教育理念・目的は、全教職員での会議などを行い確実に浸透している。また、入学案内やパンフレット、HP 等で、理念や目的、育成すべき人物像を、広く公表している。

④ 委員コメント

学校の理念・目的・育成人物像を伝えるスタートアッププログラムは宿泊での実施に戻すことも検討が必要。

宿泊は費用面や生徒のメンタル面を考えるとデメリットもあるが、全体の一体化が図れ、何より生徒が劇的に変化するチャンスを提供することが出来る。企業の研修でも宿泊での研修は効果が高いと感じる。

生徒のペースに合わせてゆっくり学ぶことも大切だが、いずれは社会人になるための切り替えが必要になる。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	4	3	2	1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	③	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	②	1

① 課題

昨年度課題として挙がっていた情報公開もHP上で行い、概ね問題なく運営されている。

業務の効率化については、まだまだ実施できる余地が多くあり今後も改善が必要な項目である。

また、組織内の意志決定方法に改善が必要である。

② 今後の改善方策

数ある業務の中で、優先順位をつけて効率化をはかっていく必要がある。

学校全体で仕組みとして改善していく部分と、個人のスキルを上げることで改善していく部分の両方が必要である。WEB会議なども有効に活用し、業務の効率化につなげていく。組織内の意志決定方法については、組織図を明確にし業務を行う上でのフローを周知する。

③ 特記事項

中・長期ビジョン・年次計画を打ち立て事業計画を策定して運営しているが、時代の移り変わりに合わせてマイナーチェンジをしながら、その目的に沿った運営を行っている。全国展開している学校法人として、本部と各校をオンラインで結び、全国の会議に使用し、授業でもオンラインで全国の情報を共有しており、例年レベルアップしている。

④ 委員コメント

教職員 1 人 1 人の業務スキルを上げるためには、生徒指導などの教務に時間をかけることが根本的な能力アップにつながる。そのためには出来るだけ事務作業は効率化を図り、生徒・教職員・取引先とのコミュニケーションに使える時間を増やすことが大切になる。また定期的な研修の実施も必要である。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

外部関係者の意見などを取り入れたカリキュラムを作成し運用しているが、カリキュラムの変更が多くなりカリキュラムの主旨や目的が浸透しきっていない部分がある。また、科目ごとの連携を深める「科目間連携」をしっかりと運用することが今後の課題の1つである。

② 今後の改善方策

まずは新しいカリキュラムをしっかりと運用し、卒業後に役立つかの効果測定をしっかりと行う必要がある。また、同じ科目を担当する教員毎に教科会議を開き、学校全体で科目間連携を強化する事に取り組む。

③ 特記事項

学園グループの各分野学校で、カリキュラムや資格を見直す組織があり、業界のニーズを学校教育に取り入れている。同様に、授業評価の実施は以前から実施しており、各評価を分析し、授業の発展に活用している。

④ 委員コメント

大阪リポート&スポーツ専門学校は非常勤教員も多いので、教員間のカリキュラムに関する細かな擦り合わせは必要になる。細かな擦り合わせが行われれば科目間の連携も密になり、より効率的に生徒が学習できる。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	④	3	2
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

卒業生の活躍により、業界からの信頼を得たことで、毎年、多くの求人を頂いています。就職は「率」も大切であるが、「質」を向上させることが今後の課題である。また、就職後に長く業界で活躍する人材を育成することも大きな課題である。

② 今後の改善方策

就職分野ごとに学園全体でキャリア支援担当を配置し、求められる人物像や選考に関する情報収集を行う。また、キャリア支援に関するアンケートなどを行い生徒のニーズあった就職指導を行っていく。今後は卒業生のフォローを同窓会機能を利用し活性化させたい。

③ 特記事項

全国展開しているグループ校との連携により、就職や資格の傾向と対策を分析し、各校により実施している。同じように、退学率の低減についても、今までの傾向から指導対策をシステム化し、教育改善を図っている。

④ 委員コメント

就職については、就職率だけではなく質の向上が必要になる。具体的には正社員率向上や就職後の離職率低減などの質の部分も検証し、在学中から対策を行う。また、どのようなキャリアステップを踏めば業界の第一線でトレーナーとして活躍できるかなどの知識も学校で教える必要がある。

資格に関しては、合格率を上げる対策を学校全体として取り組むことが出来れば、更に合格率UPを狙える資格が多数あるように感じる。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	4	3	2	1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	②	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	①
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	②	1

① 課題

卒業生の支援については事案によって個別対応をしているが、学校としての大きな取組みやシステム化はしていないのが現状である。徐々に、卒業生からのニーズが高まっていることから、早急に取り組みやシステムづくりを行う必要がある。

また、高校との連携によるキャリア教育も単発では行っているものの、連続した教育活動としては、行っていないのが現状である。

② 今後の改善方策

卒業生の支援体制は、今年度から本格的にシステムづくりに着手している。今年度は、卒業生サポートシステムを本格稼働させ、再就職や資格取得支援など積極的に進めていきます。

③ 特記事項

就職・進路に関する支援については、クラス担任と就職担当のダブルサポートシステムを実施し、決定まで導くような体制作りをしており、毎年、高い就職決定率を誇っている。

④ 委員コメント

同窓会の適切な運用が必要と感じる。同窓会HPを活用した卒業生への求人斡旋などまだまだ活性化できる。同窓会が活性化すれば生徒募集にも良い影響が出ることが予想できる。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

校舎の改修工事を一部行ったが、まだ築年数が古い為、防災に関する施設設備に老朽化の箇所が残っている。

② 今後の改善方策

1号館と2号館の全面リニューアルの実施。(3月と8月)

毎年、法令点検を実施し、改善点は早急に対応している。今年度も、点検を実施し、改善箇所は早急に対応し、安全な学校づくりを心掛ける。

また、危機管理マニュアルも毎年リニューアルすると共に教員に対しての研修も実施している。

③ 特記事項

1号館と2号館の全面リニューアルを行う。全教室にプロジェクターを設置しIT機器等を使った授業を推進すると共に、実技教室を増やしより実践的な教育に対応できる環境を整備している。

④ 委員コメント

校舎のリニューアルにより、学習環境が改善されている。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

学生募集活動において、学校の中身を知っていただく為に、オープンキャンパスに参加頂く様に促している。学費のサポートシステムなどを深く知ってもらうことが課題である。

② 今後の改善方策

経済的な問題で進学を断念する方を少しでも減らすべく、サポートシステムの充実を図っている。まずは正確な情報をHPなどでしっかりと公開し広く知ってもらうことが大切になる。

③ 特記事項

本校は大阪府専修学校各種学校連合会に加盟しており、同会で定めた募集ルールの下、広報活動行っている。入試方法・AO入試の内容も、同会のルールを厳守し、取り組んでいる。

④ 委員コメント

生徒募集は毎年上手に行っているように感じる。そのためスポーツ業界にも大阪リゾート&スポーツ専門学校の卒業生が多くなってきた。

現在の公立高校の生徒は国から支援金をもらっている生徒が多く存在する。国からのサポートが定着化しておりそういったサポートが無い専門学校の学費を高いと感じる入学希望者が増えていく可能性がある。

そのため、学費のサポート制度についてはより明確に打ち出していく必要がある。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

特に問題なし。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

特になし。

④ 委員コメント

特に問題はない。

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

27年度から自己評価の公開も実施済のため問題なし。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

特になし。

④ 委員コメント

前年度の課題であった情報公開も改善されたため、問題ない。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	①

① 課題

昨年より学校の教育施設を活用した活動の場を多くはしている。

ボランティアは機会の多さだけでなく、ボランティアの質にもこだわっていききたい。

② 今後の改善方策

継続的に産学連携を強化した学習体制を進めてるが、産業の要である“地域”と“社会”が融合した教育活動を取り入れた実習などを、実施していきたい。

③ 特記事項

学校の実技実習施設は、地域の方の水害時の避難場所に指定頂き、常に周辺の方々と連携をとりながら、地域にお役立て頂いている。

ボランティア活動に関しては、古くから数多くの活動実績も有り、その活動を高く評価していただいている為、関係団体からボランティア活動の依頼が多くなっている。そして、その活動実績が、教育効果を高め、就職活動時に成果となって現れている。

④ 委員コメント

特に問題はない。